



2022年6月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2021年11月15日

上場会社名 株式会社サニーサイドアップグループ 上場取引所 東
 コード番号 2180 URL http://www.ssug.co.jp
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 次原 悦子
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 コーポレート本部 (氏名) 相田 俊充 TEL 03-6894-3233
 本部長
 四半期報告書提出予定日 2021年11月15日 配当支払開始予定日 -
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

百万円未満切捨て

1. 2022年6月期第1四半期の連結業績（2021年7月1日～2021年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年6月期第1四半期	3,444	-	140	-	213	-	127	-
2021年6月期第1四半期	2,771	△38.5	14	△96.4	△5	-	△15	-

(注) 包括利益 2022年6月期第1四半期 118百万円 (-%) 2021年6月期第1四半期 15百万円 (△94.2%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年6月期第1四半期	8.48	-
2021年6月期第1四半期	△1.05	-

※「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日）等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、2022年6月期第1四半期に係る各数値については、当該会計基準等を適用した後の数値となっております。対前年同四半期増減率は記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年6月期第1四半期	6,719	2,381	34.5
2021年6月期	7,163	2,340	31.8

(参考) 自己資本 2022年6月期第1四半期 2,317百万円 2021年6月期 2,279百万円

※「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日）等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、2022年6月期第1四半期に係る各数値については、当該会計基準等を適用した後の数値となっております。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年6月期	-	0.00	-	6.00	6.00
2022年6月期	-	-	-	-	-
2022年6月期（予想）	-	0.00	-	9.00	9.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2022年6月期の連結業績予想（2021年7月1日～2022年6月30日）

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	13,900	-	650	-	680	-	420	-	27.88

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※2022年6月期の期首より「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日）等を適用するため、上記の連結業績予想は当該会計基準等を適用した後の数値となっており、対前期増減率は記載していません。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 有

（注）詳細は、添付資料9ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項（四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用）」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2022年6月期1Q	15,191,600株	2021年6月期	15,191,600株
② 期末自己株式数	2022年6月期1Q	128,668株	2021年6月期	128,668株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2022年6月期1Q	15,062,932株	2021年6月期1Q	15,062,932株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項については、添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	9
(会計方針の変更)	9
(追加情報)	9
(セグメント情報)	10
(収益認識関係)	12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間(2021年7月1日～2021年9月30日)においては、新型コロナウイルス感染症の感染再拡大により、首都圏を中心に緊急事態宣言の再発出やまん延防止等重点措置が実施されるなど、当社グループのフードブランディング事業にとっては厳しい経営環境でしたが、基幹事業であるマーケティング&コミュニケーション事業を中心としたその他の事業がコロナ禍における社会的なニーズや価値観の変化に伴う需要を的確にとらえたことで、連結業績は底堅く推移しました。

マーケティング&コミュニケーション事業では、リアルな場の集客を伴うイベント需要は依然として回復していないものの、グループの総合提案力を活かしながら、様々なコミュニケーション・ソリューションを提供することでコロナ禍を機に変容する顧客ニーズに適応しながら、既存顧客の深堀はもとより新規顧客の獲得を進めたことで連結業績を牽引しております。

セールスアクティベーション事業では、新規のコア顧客の獲得および新規サービス開発に取り組む一方、大手ハンバーガーチェーンやコンビニチェーン等、コロナ禍の変化に適応した既存顧客への企画提案を強化しながら、順調に案件を獲得したことで業績は好調に推移しております。

フードブランディング事業では、時間短縮営業や休業に伴う来店客数の減少、酒類提供の一時的な中止という厳しい運営状況が続く中、固定費圧縮やテイクアウトサービスの導入等、店舗収益力維持に取り組むと同時に、新型コロナウイルス感染症に係る各種助成金を受けながら、従業員の雇用維持をはじめとする事業基盤の維持に努めております。

ビジネスディベロップメント事業は、流動的な社会情勢を慎重に予測しながらも、コロナ禍を機に加速する社会の変化を敏に捉え、SDGs達成に寄与するビジネス創出等による新たな収益源の確立に取り組んでおります。

当第1四半期連結累計期間の業績は、下記の通りになりました。

売上高	3,444百万円
営業利益	140百万円
経常利益	213百万円
親会社株主に帰属する四半期純利益	127百万円

なお、当第1四半期連結会計期間より「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を適用したため、上記の連結業績および下記のセグメント業績につきましては、当該会計基準等を適用した後の数値となっております、対前期増減率は記載しておりません。

セグメントの構成および業績は次のとおりです。

セグメント区分	構成子会社
①マーケティング&コミュニケーション事業	(株)サニーサイドアップ(コンテンツ関連部署を除く。)
	(株)クムナムエンターテインメント
	(株)エアサイド
	(株)ステディスタディ
	(株)スクランブル
②セールスアクティベーション事業	(株)サニーサイドアップ(コンテンツ関連部署)
	(株)ワイズインテグレーション
③フードブランディング事業	(株)フライバン
	SUNNY SIDE UP INTERNATIONAL, INC.
	bills waikiki LLC
④ビジネスディベロップメント事業	SUNNY SIDE UP KOREA INC
	(株)グッドアンドカンパニー※
	(株)サニーサイドアップパートナーズ
	(株)アジャイル

※(株)サニーサイドアップキャリアより商号変更

①マーケティング&コミュニケーション事業

グループの基幹事業である当事業では、PRを軸としながら、プロモーション、スポーツマーケティング、ブランディング、コンテンツ開発等、マーケティングおよびコミュニケーションサービスを提供しております

当第1四半期連結累計期間においては、グループシナジーの創出によるソリューションの拡充等の取り組みが、既存顧客の深堀と新規顧客の獲得の両側面に効果を発揮し、グループの連結業績を牽引いたしました。

当社グループの中核会社である(株)サニーサイドアップでは、企画力とメディアネットワークを強みに、マーケティング&コミュニケーション領域におけるサービス全般を幅広く提供しております。セグメントを横断したグループ各社のソリューション活用により総合的な提案力を高め、特定の業種・業界にとらわれない多種多様な案件を獲得し、当事業セグメントを大きく牽引する結果となりました。

(株)クムナムエンターテインメントでは、強力なキャスティングネットワークとプランニング力を活用し、日本および韓国の人気アーティストやK-POPグループ等を起用した、企業ブランディング活動やコンテンツ開発を多数手掛けております。

(株)エアサイドでは、高いクリエイティビティとエンターテインメント業界とのリレーションを武器に、CMPRや記者発表会などを多数手がけ、安定的に利益を獲得しております。

(株)ステディスタディでは、海外のハイファッションブランドとのビジネスの比重が高く、依然コロナ禍の影響を受けてはいるものの、ファッション業界における専門性の高い知見やキャスティング力を活用し、(株)サニーサイドアップと連携することでサービス領域を広げ、イベントやコンサルティングの案件を中心に増収傾向にあります。

(株)スクランブルでは、インフルエンサー・マーケティング領域を中心としたPRサービスを展開しており、YouTubeやInstagram等の施策にセールスアクティベーション事業のMDのノウハウを掛け合わせることで、サービス内容の拡充に取り組んでいます。

これらの結果、当第1四半期連結累計期間の業績は以下の通りになりました。

売上高	1,485百万円
セグメント利益	392百万円

②セールスアクティベーション事業

当事業では、店頭等の消費者とのコンタクトポイントにおける購買・成約の意思決定を促すためのノウハウ・ソリューションを提供しております。

(株)サニーサイドアップのコンテンツ関連事業では、タレントやキャラクターなどIP(知的財産)を活用したコンテンツ制作及び販促施策を手掛けております。

当第1四半期連結累計期間では、大手コンビニエンスストアにおけるIP(知的財産)を活用した販促企画を手掛ける等、前期から好調な業績水準を継続しております。

(株)ワイズインテグレーションでは、商品キャンペーンの企画からグッズ制作、雑貨の商品企画およびOEM、国際支援団体のマーケティングサポート等を展開するとともに、自社商材・サービス拡充にも注力しております。

当第1四半期連結累計期間では、コロナ禍の中でも好調を維持する大手ハンバーガーチェーンにおける大型キャンペーンの獲得等に加えて、IP(知的財産)を活用したコラボ商材の企画販売等の従来から得意としていた領域の案件に加えて、企業のコミュニケーション戦略・販促PRの案件を獲得するなど、活動領域を拡大するとともに業績を伸ばしております。

これらの結果、当第1四半期連結累計期間の業績は以下の通りになりました。

売上高	1,227百万円
セグメント利益	147百万円

③フードブランディング事業

当事業では、オーストラリア・シドニー発のオールデイダイニング「bills」等のブランディングおよびライセンシングビジネスならびに韓国における「bills」の管理・運営を行っています。

当第1四半期連結累計期間における国別の状況は下記の通りです。

(国内)

無観客による東京オリンピック・パラリンピックの開催、緊急事態宣言の再発出やまん延防止等重点措置の実施の影響により、営業時間の短縮および酒類提供の中止による集客力の低下から売上が低迷しました。

(韓国)

韓国2号店閉店によって事業規模は縮小したものの、既存店舗は、コロナ禍においても底堅い業績を着実に残しています。

(米国ハワイ州)

コロナ禍の深刻な影響によって2020年9月より継続していた休業を当第1四半期連結累計期間中も継続していましたが、2021年10月より先行して戻り始めている北米からの観光客を主要ターゲット層にした新業態ダイニング「UPSTAIRS (アップステアーズ)」として新たな営業を開始しております。

これらの結果、当第1四半期連結累計期間の業績は以下の通りになりました。

売上高	526百万円
セグメント利益	△110百万円

④ビジネスディベロップメント事業

当事業では、基幹事業が安定的な収益基盤を構築する中、新規事業の開発・創出による当社グループの事業領域の拡充に取り組んでおり、その目的から投資を含めてコストが先行する事業モデルになっており、当第1四半期連結累計期間における業績も想定範囲内で進捗しております。

㈱サニーサイドアップキャリアでは従来のリクルーティングサービスに加え、社会全体の共通課題である、サステナビリティの実現に向けたコミュニケーションサービスを新たな事業軸とすることを目的に、2021年8月付で㈱グッドアンドカンパニーに商号を変更いたしました。「知る」「学ぶ」「変える」の3つのアプローチを通して、女性の心身の課題と社会的課題の両面から、女性活躍をデザインする参画型プロジェクト「W society」を皮切りに、今後様々な社会課題の解決にフォーカスした事業を展開する予定です。

㈱サニーサイドアップパートナーズでは、事業シーズおよび事業パートナーの発掘から事業スキーム策定、ならびに事業化後における管理・運用業務を行っております。

㈱アジャイルでは、各企業が有する資産やIP(知的財産)を組み合わせるノウハウを軸とした新業態・新商品の開発支援・コンサルティングサービスを提供しております。

これらの結果、当第1四半期連結累計期間の業績は以下の通りになりました。

売上高	204百万円
セグメント利益	△43百万円

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末における資産合計は、6,719百万円(前連結会計年度末比444百万円減)となり、資産の内訳につきましては、流動資産が5,210百万円(同433百万円減)、固定資産が1,508百万円(同10百万円減)であります。また、負債合計は、4,337百万円(同486百万円減)となり、負債の内訳につきましては、流動負債が3,049百万円(同350百万円減)、固定負債が1,288百万円(同136百万円減)であります。純資産合計は、2,381百万円(同41百万円増)となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年6月期の連結業績予想につきましては、2021年8月13日に公表いたしました連結業績予想から変更はございません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年6月30日)	当第1四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,603,072	1,798,918
受取手形及び売掛金	2,211,815	2,105,467
商品及び製品	11,280	48,494
未成業務支出金	291,148	574,418
原材料及び貯蔵品	32,944	27,641
その他	494,148	655,698
貸倒引当金	△213	△236
流動資産合計	5,644,197	5,210,402
固定資産		
有形固定資産		
その他(純額)	410,984	413,737
有形固定資産合計	410,984	413,737
無形固定資産		
のれん	358,957	348,602
その他	15,996	14,863
無形固定資産合計	374,953	363,466
投資その他の資産		
その他	808,025	805,937
貸倒引当金	△74,275	△74,275
投資その他の資産合計	733,750	731,662
固定資産合計	1,519,688	1,508,866
資産合計	7,163,886	6,719,269
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,437,118	1,144,931
短期借入金	300,000	560,482
1年内返済予定の長期借入金	529,483	530,102
未払法人税等	292,919	97,426
賞与引当金	-	2,244
役員賞与引当金	230,029	-
その他	609,712	714,057
流動負債合計	3,399,264	3,049,245
固定負債		
長期借入金	1,075,683	946,199
資産除去債務	123,717	123,031
その他	225,151	219,083
固定負債合計	1,424,552	1,288,314
負債合計	4,823,816	4,337,560

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年6月30日)	当第1四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	547,764	547,764
資本剰余金	696,127	696,127
利益剰余金	1,052,963	1,090,416
自己株式	△30,423	△30,423
株主資本合計	2,266,432	2,303,886
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	5,882	5,936
為替換算調整勘定	6,788	7,548
その他の包括利益累計額合計	12,670	13,485
新株予約権	50,639	64,337
非支配株主持分	10,326	-
純資産合計	2,340,069	2,381,708
負債純資産合計	7,163,886	6,719,269

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2020年7月1日 至 2020年9月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2021年7月1日 至 2021年9月30日)
売上高	2,771,174	3,444,461
売上原価	2,252,340	2,747,996
売上総利益	518,833	696,464
販売費及び一般管理費	504,238	556,051
営業利益	14,595	140,413
営業外収益		
受取利息	52	39
組合損益分配額	-	26,366
助成金収入	-	43,276
その他	11,354	7,431
営業外収益合計	11,407	77,113
営業外費用		
支払利息	2,806	2,581
組合損益分配額	28,176	-
その他	408	973
営業外費用合計	31,391	3,554
経常利益又は経常損失(△)	△5,388	213,972
特別利益		
新株予約権戻入益	58,010	-
特別利益合計	58,010	-
特別損失		
固定資産除却損	-	138
特別損失合計	-	138
税金等調整前四半期純利益	52,621	213,834
法人税等	72,671	96,330
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△20,049	117,504
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△4,115	△10,326
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△15,933	127,830

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2020年7月1日 至 2020年9月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2021年7月1日 至 2021年9月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△20,049	117,504
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	4,014	54
為替換算調整勘定	31,171	759
その他の包括利益合計	35,186	814
四半期包括利益	15,136	118,318
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	19,252	128,644
非支配株主に係る四半期包括利益	△4,115	△10,326

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、当第1四半期連結累計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することといたしました。収益認識会計基準等の適用による主な変更点は以下のとおりであります。

一部の取引について、従来は、顧客から受け取る対価の総額を収益として認識しておりましたが、顧客への財又はサービスの提供における当社グループの役割が代理人に該当する取引については、顧客から受け取る額から取引先に支払う額を控除した純額で収益を認識する方法に変更しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っております。この結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は253,045千円減少、売上原価は253,045千円減少しておりますが、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益への影響はありません。また、利益剰余金の当期首残高への影響もありません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することといたしました。これによる四半期連結財務諸表への影響はありません。

(追加情報)

(会計上の見積りに対する新型コロナウイルス感染症の影響)

前連結会計年度の有価証券報告書の(重要な会計上の見積り)に記載した新型コロナウイルス感染症の収束時期等を含む仮定について重要な変更はありません。

(セグメント情報)

I 前第1四半期連結累計期間(自 2020年7月1日 至 2020年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	マーケティング &コミュニケーション 事業	セールスア クティベーション 事業	フードブラ ンディング 事業	ビジ ネスディベ ロップメン ト事業	計		
売上高							
外部顧客への 売上高	1,281,964	823,204	642,813	23,191	2,771,174	-	2,771,174
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	18,742	900	1,174	17,717	38,533	△38,533	-
計	1,300,706	824,104	643,988	40,908	2,809,707	△38,533	2,771,174
セグメント利益 又は損失(△)	177,093	85,013	△34,010	△3,940	224,154	△209,559	14,595

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額の内容は以下のとおりであります。

(単位:千円)

	前第1四半期連結累計期間
セグメント間取引消去	10,973
全社費用(注)	△220,533
合計	△209,559

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。
3. 報告セグメントの変更等に関する事項

当第1四半期連結会計期間より、当社グループ内での経営管理区分の見直しを行った結果、従来、「開発事業」に含めていました株式会社エアサイドの事業、及び「スポーツ事業」を「マーケティング・コミュニケーション事業」の区分に、「マーケティング・コミュニケーション事業」の一部を「SP・MD事業」に変更しております。また、「マーケティング・コミュニケーション事業」の名称を「マーケティング&コミュニケーション事業」に、「SP・MD事業」を「セールスアクティベーション事業」に、「bills事業」を「フードブランディング事業」に、及び「開発事業」を「ビジネスディベロップメント事業」にそれぞれ変更しております。なお、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報は、経営管理区分の見直し後の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。

Ⅱ 当第1四半期連結累計期間(自 2021年7月1日 至 2021年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	マーケティング &コミュニケーション 事業	セールスア クティベーシ ョン事業	フードブラ ンディング 事業	ビジ ネスディベ ロップメン ト事業	計		
売上高							
外部顧客への 売上高	1,485,881	1,227,474	526,758	204,347	3,444,461	-	3,444,461
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	29,520	4,542	432	23,274	57,769	△57,769	-
計	1,515,402	1,232,016	527,190	227,621	3,502,231	△57,769	3,444,461
セグメント利益 又は損失(△)	392,649	147,031	△110,231	△43,770	385,678	△245,265	140,413

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額の内容は以下のとおりであります。

(単位:千円)

	当第1四半期連結累計期間
セグメント間取引消去	△341,526
全社費用(注)	96,261
合計	△245,265

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

当第1四半期累計期間(自 2021年7月1日 至 2021年9月30日)

(単位:千円)

	報告セグメント				合計
	マーケティング & コミュニケー ション事業	セールスアク ティベーション 事業	フードブランデ イング事業	ビジネスディベ ロップメント事 業	
日本	1,438,917	1,224,747	417,961	202,847	3,284,473
アジア	18,434	2,727	103,965	1,500	126,627
米国	13,578	—	4,830	—	18,409
欧州	14,951	—	—	—	14,951
顧客との契約から生じ る収益	1,485,881	1,227,474	526,758	204,347	3,444,461
外部顧客への売上高	1,485,881	1,227,474	526,758	204,347	3,444,461